



■伊勢志摩サミットで使用された代表的な食器類

萬古焼(四日市)の盃による乾杯



盛絵を施した四日市萬古焼酒杯高台は金・銀彩。三重県の特産品である四日市萬古焼(経済産業大臣指定伝統的工芸品)の伝統技法である盛絵で、伊勢志摩の自然である海や日本の伝統柄である桜などを施した酒杯(ペア)は、本サミットの開催地である三重県の伝統技術及び日本の伝統美を紹介するものとして、乾杯に使用されました。制作者(清水 酔月氏、※成形担当)は、萬古陶磁器工業協同組合理事長、1990年天皇陛下献上(即位の礼)、2011年四日市市文化功労者表彰。

越前塗二見ヶ浦 夫婦石蒔絵椀



素材は、肌目が緻密で堅く表面が美しく仕上がることで知られる高級素材、水目桜の木材を使用し一つ一つ丹念に彫り上げて作った越前漆器です。蒔絵には三重県を代表する観光名所の一つ、二見ヶ浦の夫婦岩をモチーフに、見た目も華やかなイメージに仕上げています。蓋の所には吸盤のように密着して取れにくい状態が発生しないように小さい穴を開けて、片手でもこぼさず簡単に開けられるよう工夫されています。

伊勢春慶塗二重弁当箱



江戸時代から昭和にかけて伊勢で盛んに作られていた漆器で、使いでの良さと美しい風合いのある伝統工芸品、伊勢春慶の重箱です。木目を生かす透明漆で木地の絵模様が素朴な生なりを尊ぶ伊勢の気風を現しています。中の仕切り部分は固定せず料理内容や入れる器を自由に変えられるように工夫されています。